
恋愛依存症のサガシモノ

a c o

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋愛依存症のサガシモノ

【Nコード】

N9381B

【作者名】

aco

【あらすじ】

女の子はいつも恋愛していたい、恋愛依存症なイキモノ。女の子はいつもサガシモノをしている……。――。

『…ハナ、ごめんね。30分たったら起こして。』

元々細い目を必死に見開いてヨースケが言う。

AM2:46 間接照明の薄暗い部屋のソファで伸びをしながら。

不眠症で夜型人間の私は、ヨースケの目を真似て細めて言った。

『嫌。寝なよ。明日も仕事じゃん。可哀想で起こせないもん。』

なんて、聞き訳のイイ振りをする。

本当は、まだたくさん話したいし、イチャつきたい。

『いや…起こしていいから。せつかくハナといるのにもつたいない。』

うん、そう。その言葉が聞きたかったの。

ニコツと営業的な笑顔で

『はいはい、おやすみね。』と、足元にあったブランケットを、ヨースケの閉じそうな目を塞ぐように掛けた。

暇だなあ…。

TVの電源を入れて、付けたまんまのチャンネルを見入る。しかし、情報は全て、右から左へ流れていく。

ぐおーッ…

ぐおーッ…

ぐががッ

イビキスゴイな。

体育座りをして、体はTVの方を向けたまま、ヨースケを観察し始めた。

髭濃いなあ…。

あ、ギャランドウ…。

お腹出てるなあ…。

体をボリボリ掻いている。

腕を見たら小さなカサブタがちらほら。

こんな顔だったっけ？

さっきまで、『好き』ってちょっと思ってきた…かもしれないかったんだけど…。

好き？

好きだったの？

自分でもわかんないけど。

ヨースケは彼氏じゃない。

CLUB仲間。

結構前から知ってたけど、話したコトあったような…なかったような。

友達の友達で、本当に最近ふとしたコトで携帯番交換した。

用事があつて私から電話した。

『いいよ。俺からかけるよ。』

なんて、気の利いた奴で。

それから8時間も話し続けた。

8時間だよ？8時間！

初めて話すに近いか知らないヨースケばつかで。

もちろん知らない私ばつかだったんだろうね。

昔の恋愛とか、仕事の話し…。

実のない話しばかりたくさんした。

今までなんで話ししなかったんだろうつて、顔見知りだけの時間を埋めるように話し続けた…。

…と、私は思ってたんだけど。

こんなに長電話出来る人って早々いないッ！

なあんで、ちょい運命的なモノを感じちゃってさ。

そつえば、元々彼とも付き合う前に一日中電話して『運命かも』なんて言ってた私。

女の子って『運命』好きだよなあ。

理由こじつけて『運命なの』って連呼してる。

私もその一人。

好きってゆうか『この人しかいないかもッ』って
雰囲気で突き進むタイプかな。
常に恋愛してたいの。

ヨースケは優しい。
仕事も頑張ってる。
男にしてはメールもマメだし。

でも、ぶっちゃけカッコヨクナイ。

髪の毛もどつか県の知事みたいに薄い…

私の好きなタイプは顔の濃いイギリス人みたいな美形。

…全く違う。

全く以上に表せる言葉があるなら、そっちを使うべきってくらい。

でも、でもね、私、この間仕事でへこんでズル休みしたの。
そのときヨースケが叱ってくれたの。
でもね、でもね、その叱り方が新鮮だった。

『いいんじゃない。ダメなときもあるよ。でも、ずっとじゃダメ。
ズルして気がすんだでしょ。明日は行きなよ。朝電話してあげるか
ら。』

お父さんみたい。
大きな心でさ。
包んで欲しいかも…って思っちゃった。

でもブサイク。

あ、30経った。

そっとヨースケの頬を突っ突いてみた。

ビクっとして眉間にシワが依った。

そんなヨースケを見て、私の眉間にもシワが依った。

いいや、寝かせておこう。

なんか違うかも。

きつと、好きじゃないもん。

ヨースケに背を向けて、私も寝転んだ。

私の髪がヨースケの鼻先をくすぐり、むず痒がっている。

鼻を齧りながら、慣れた手つきで、私の首の後ろに腕を入れて来た。そして、後ろから包むように抱きしめられた。

ヨースケの顎が私の耳に当たる。

『…ハナ、いい匂いする…』

『耳がジヨリジヨリするよッ』

そう言いながら、ヨースケの方を向いて生えかけた髭の頬にキスをした。

ああ…

本当に…

『運命』って怖い。(苦笑い)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9381b/>

恋愛依存症のサガシモノ

2010年11月18日14時36分発行